釧保子第 4361 号
平成 25 年 2 月 4 日

一般社団法人　釧路市医師会長　様

北海道釧路総合振興局保健環境部長
（北海道釧路保健所長）

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の国内での発生について（情報提供及び協力依頼）

本道の感染症対策の推進につきましては、日頃から御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

今般、中国において 2009 年頃より発生が確認され、2011 年に初めて原因ウイルスが特定された新しいダニ媒介性疾患「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」の症例（患者 1 名：昨秋死亡。最近の海外渡航歴無なし。）が、国内において確認されたことから、厚生労働省健康局結核感染症課長（道本庁保健福祉部健康安全局地域保健課経由）から別添のとおり情報提供及び協力依頼がありました。

つきましては、次の要件に該当する患者を診察した場合は、速やかに当所に対し、情報提供いただくよう管内の関係医療機関（内科または皮膚科を標榜し、入院設備を有する医療機関）あて通知しておりますが、貴職におかれましても、この旨、会員の皆様に周知いただくようお願いいたします。

なお、本通知による取扱いの終了については、別途通知させていただきます。

記

（情報提供を求める患者の要件）

３８度以上の発熱と消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血のいずれか）を呈し、血液検査所見で血小板減少（10 万/mm^3未満）、白血球減少（4000/mm^3未満）及び血清酵素（AST、ALT、LDH のいずれも）の上昇が見られ、集中治療を要する、若しくは要した、又は死亡した者。

ただし、他の感染症によること又は他の病因が明らかな場合は除く。

（保健行政室子ども・健康推進課）

担　当：保健予防係長　西
電　話：0154-22-1233
ＦＡＸ：0154-22-1273
E-mail：nishi.kengo@pref.hokkaido.lg.jp

地 保 第 3629号
平成25年 2月 1日

各総合振興局(振興局)保健環境部長　様
地域保健室長　様

保健福祉部健康安全局地域保健課長

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の国内での発生について

今般、中国において2009年頃より発生が確認され、2011年に初めて原因ウイルスが特定された新しいダニ媒介性疾患「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」の症例（患者1名:昨秋死亡。最近の海外渡航歴なし。）が、国内において確認されたことから、厚生労働省健康局結核感染症課長より別添のとおり情報提供及び協力依頼がありました。

つきましては、貴管内の市町村、郡市医師会及び関係医療機関に周知いただくとともに、医療機関に対しては、次の要件に該当する患者を診察した場合の情報提供についても、協力依頼をお願いします。

また、医療機関から情報提供があった場合には、各保健所においてただちに受理表(様式任意)を作成の上、当課担当者あて連絡願います。

なお、本通知による取扱いの終了については、別途通知するものとします。

記

(情報提供を求める患者の要件)

３８度以上の発熱と消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血のいずれか）を呈し、血液検査所見で血小板減少（10万/㎣未満）、白血球減少（4000/㎣未満）及び血清酵素（AST、ALT、LDHのいずれも）の上昇が見られ、集中治療を要する、若しくは要した、又は死亡した者。

ただし、他の感染症によること又は他の病因が明らかな場合は除く。

感染症・特定疾患グループ　担当：佐治
TEL 011-231-4111（内線 25-519）
FAX 011-232-2013
Email saji.naosuke@pref.hokkaido.lg.jp

【釧路保健所管内】重症熱性血小板減少症候群（SFTS）国内発生通知先一覧【病院・診療所】
※内科または皮膚科を標榜し、入院設備を有する医療機関

No.	名　　称	電話番号	FAX	郵便番号	所　在　地	診　療　科　目
1	独立行政法人労働者健康福祉機構　釧路労災病院	0154-22-7191	25-7308	085-0052	釧路市中園町13番23号	内･神内･循･小･外･整･形･脳･皮膚･泌･産婦･眼･耳･放･麻･歯･リハ･精
2	総合病院釧路赤十字病院	0154-22-7171	24-7880	085-0032	釧路市新栄町21番14号	内･消化器内科･精･小･外･整･皮泌･産婦･眼･耳･放･麻･リハ･歯･矯歯･歯外
3	市立釧路総合病院	0154-41-6121	41-4080	085-0822	釧路市春湖台1番12号	内･神･精･呼吸器内科･消化器内科･心外･小･外･整･脳･心外･皮･泌･産婦･眼･耳･放･麻･リウ･歯･口外･リハ･アレ･病理診断科
4	社会医療法人孝仁会　釧路孝仁会記念病院	0154-39-1222	39-0330	085-0062	釧路市愛国191番212	脳･整･心外･循環器内科･内･呼吸器内科･外･放･麻･リハ･泌
5	医療法人太平洋記念　みなみ病院	0154-46-3162	46-3583	085-0813	釧路市春採7丁目9番9号	内･消化器内科･呼吸器内科･整･リハ･循環器内科･婦
6	医療法人扶恵会　釧路中央病院	0154-31-2111	22-0367	085-0018	釧路市黒金町8丁目3番地	内･消･リハ
7	医療法人社団美生会　釧路第一病院	0154-51-2121	51-2122	084-0906	釧路市鳥取大通4丁目11番10号	内･外･整･皮
8	医療法人社団敬愛会　白樺台病院	0154-91-6311	91-5664	085-0804	釧路市白樺台2丁目25番1号	内･消化器内科･循環器内科
9	医療法人社団優心会　釧路優心病院	0154-57-8054	57-5182	084-0917	釧路市大楽毛5丁目8番18号	内･精･神
10	医療法人社団藤花会　釧路谷藤病院	0154-22-7111	24-6266	085-0006	釧路市双葉町3番15号	内･外
11	道東勤医協釧路協立病院	0154-24-6811	25-8500	085-0055	釧路市治水町3番14号	内･外･整･麻･リウ･リハ
12	医療法人社団三慈会　釧路三慈会病院	0154-41-2299	41-2263	085-0836	釧路市幣舞町4番30号	内･循環器内科･外・整･麻
13	医療法人豊慈会　釧路北病院	0154-55-6111	55-3811	084-0902	釧路市昭和190番地105	内･リハ･眼
14	医療法人東北海道病院	0154-23-2754	23-5500	085-0036	釧路市若竹町7番19号	内･整･リハ･リウ･麻
15	社会医療法人孝仁会　星が浦病院	0154-54-2500	54-2510	084-0912	釧路市星が浦大通3丁目9番13号	脳･リハ･放･心外･循環器内科･呼外･眼･神内
16	市立釧路国民健康保険阿寒病院	0154-66-3031	66-3032	085-0215	釧路市阿寒町中央1丁目7番8号	内･小･外･整･泌
17	町立厚岸病院	0153-52-3145	52-6137	088-1127	厚岸町住の江1丁目1番地	内･小･外･整･脳
18	つるい養成邑病院	0154-64-2321	64-2324	085-1200	鶴居村字雪裡原野北22線西11番地	内･精･神
19	標茶町立病院	01548-5-2135	5-2519	088-2311	標茶町開運4丁目1番地	内･外･産婦･リハ･小
20	医療法人共生会　川湯の森病院	01548-3-3121	3-2763	088-3465	弟子屈町川湯温泉4丁目1番1号	内･心内･精
21	JA北海道厚生連摩周厚生病院	01548-2-2241	2-8222	088-3212	弟子屈町泉2丁目3番1号	内･外･整･リハ･眼･リウ･小･皮
22	医療法人社団明眸会　カケハシ眼科内科	0154-22-3151	22-3153	085-0035	釧路市共栄大通9丁目2番地	眼･内
23	医療法人社団新橋肛門科クリニック	0154-25-3535	24-1733	085-0046	釧路市新橋大通2-2-2	胃･皮･肛
24	医療法人社団　林田クリニック	0154-24-7173	25-2959	085-0004	釧路市新富町1-7	内･外･胃腸内科･循内･肛外
25	まき内科胃腸科医院	0154-23-3651	22-6216	085-0016	釧路市錦町5-2-9	内･胃･循･小
26	市立釧路国民健康保険音別診療所	01547-6-2150	01547-6-2860	088-0116	釧路市音別町中園2丁目97番地1	内･消･小･外
27	陸上自衛隊釧路駐とん地医務室	0154-40-2011		088-0604	釧路郡釧路町別保112	内･外･歯
28	渡辺医院	0154-37-8181	37-5718	088-0616	釧路郡釧路町曙3-11-4	内･胃･外･整･肛
29	浜中町立浜中診療所	0153-62-2233	0153-62-2262	088-1513	厚岸郡浜中町霧多布東3条1-40	内･小･外

健感発 0130 第 1 号
平成 25 年 1 月 30 日

各 ｛都道府県／保健所設置市／特別区｝ 衛生主管部（局）長　殿

厚生労働省健康局結核感染症課長

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の国内での発生について
（情報提供及び協力依頼）

今般、別添１のとおり、中国において2009年頃より発生が報告され、2011年に初めて原因ウイルスが特定された新しいダニ媒介性疾患「重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome: SFTS）」の症例（患者1名：昨秋に死亡。最近の海外渡航歴なし。）が、国内において確認されました。

つきましては、別添２・３のとおり本疾患に関するQ&Aなど、資料を取りまとめましたので、本件について関係者への周知方お願いします。

また、貴管内医療機関に対して、今後、下記の要件に該当する患者を診察した場合の情報提供について、協力依頼をお願いします。医療機関から情報提供があった場合には、その内容について当課までご連絡ください（様式任意）。

なお、本通知による依頼の終了については、別途、通知します。

記

（情報提供を求める患者の要件）

38 度以上の発熱と消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血のいずれか）を呈し、血液検査所見で血小板減少（10 万/mm^3 未満）、白血球減少（4000/mm^3 未満）及び血清酵素（AST、ALT、LDH のいずれも）の上昇が見られ、集中治療を要する、若しくは要した、又は死亡した者。

ただし、他の感染症によること又は他の病因が明らかな場合は除く。

参考資料

別添１：病原微生物検出情報（IASR）速報　国内で初めて診断された重症熱性血小板減少症候群患者

別添２：重症熱性血小板減少症候群について

別添３：重症熱性血小板減少症候群に関する Q&A

連絡先：健康局結核感染症課情報管理係
電 話：03－5253－1111（内線 2094）

本疾患に関する技術的な問い合わせ：国立感染症研究所ウイルス第一部長　西條政幸
電 話：03－5285－1111（内線 2502）

国内で初めて診断された重症熱性血小板減少症候群患者

重症熱性血小板減少症候群（severe fever with thrombocytopenia syndrome, SFTS）はブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類される新規ウイルス、SFTS ウイルス　(SFTSV)、によるダニ媒介性感染症である。2011 年に中国で SFTS と命名された新規感染性疾患が報告されて以来[1)]、中国国内の調査から現在 7 つの省（遼寧省、山東省、江蘇省、安徽省、河南省、河北省、浙江省）で患者発生が確認されている[1, 2)]。国内で初めて、発熱や血小板減少等の症状を呈し亡くなられた患者が、ウイルス学的に SFTSV による感染症と診断されたので報告する。

2012 年秋、海外渡航歴のない成人患者に、発熱、嘔吐、下痢（黒色便）が出現した。入院時身体所見では、明らかなダニ咬傷はなく、血液検査所見では、白血球数（400 /mm^3）と血小板数（8.9×10^4 /mm^3）が著明に低下していた。また、AST、ALT、LDH、CK の高値が認められた。血液凝固系の異常、フェリチンの著明な上昇も認められた。尿検査で血尿、蛋白尿が認められた。胸腹部単純 CT では右腋窩リンパ節腫大を認めた。骨髄穿刺検査により、マクロファージによる血球貪食像を伴う低形成髄の所見が認められた。その後に四肢脱力および肉眼的血尿と多量の黒色便を認め、全身状態が不良となり死亡した。入院中に採取された血液からウイルスが分離され、SFTSV と同定された。また血液中に SFTSV 遺伝子が含まれることが確認された。血清は ELISA、IF 法による SFTSV に対する抗体検査において陰性であった。病理組織において SFTSV の抗原及び核酸が確認された。

SFTSV は 3 分節の 1 本鎖 RNA を有するウイルスで、クリミア・コンゴ出血熱やリフトバレー熱、腎症候性出血熱やハンタウイルス肺症候群の原因ウイルスと同様にブニヤウイルス科に属する。中国からの報告では、マダニ［フタトゲチマダニ（*Haemophysalis longicornis*）、オウシマダニ（*Rhipicephalus microplus*）］からウイルスが分離されており[1, 3)]、SFTSV の宿主はダニであると考えられている。また、ダニに咬まれることの多い哺乳動物から SFTSV に対する抗体が検出されていることから、これらの動物も SFTSV に感染するものと考えられる[1)]。ヒトへの感染は、SFTSV を有するダニに咬まれることによるが、他に患者血液や体液との直接接触による感染も報告されている[4)]。ウイルス血症を伴う動物との接触による感染経路もあり得ると考えられる。SFTSV に感染すると 6 日～2 週間の潜伏期を経て、発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）、頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、呼吸器症状（咳、咽頭痛）、出血症状（紫斑、下血）等の症状が出現し、致死率は 10%を超える[1, 5)]。SFTS はダニ媒介性ウイルス感染症であることから、流行期はダニの活動が活発化する春から秋と考えられる。ダニは日本国内に広く分布する。ただし、詳

細はこれからの研究を待たなくてはならない。

確定診断には、血液などからの SFTSV の分離・同定、RT-PCR による SFTSV 遺伝子検出、急性期及び回復期における SFTSV に対する血清 IgG 抗体価、中和抗体価の有意な上昇の確認が必要であり、現在国立感染症研究所ウイルス第一部で検査が可能である。治療に関しては、リバビリン使用の報告があるが[2)]、その有効性は確認されていない。基本的に対症療法となる。有効なワクチンはない。

医療機関における院内感染予防には、ヒトからヒトに感染する接触感染経路があることから[4)]、標準予防策の遵守が重要である。また、臨床症状が似た患者を診た場合には SFTS を鑑別診断に挙げることが重要である。

SFTSV に感染しないようにするには、ダニに咬まれないようにすることが重要である。草むらや藪など、ダニの生息する場所に入る場合には、長袖の服、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくすることが重要である。

SFTS が疑われる患者を診た場合には、最寄りの保健所、または、国立感染症研究所問い合わせ窓口（info@niid.go.jp）に連絡していただきたい。

参考文献

1. Yu XJ, et al. N Engl J Med 364:1523-32, 2011
2. Li S, et al. Biosci Trends 5:273-6, 2011
3. Zhang YZ, et al. J Virol 86:2864-8, 2012
4. Tang X, et al. J Infect Dis ahead of print. 2013
5. Xu B, et al. PLoS Pathog 7:e1002369, 2011

国立感染症研究所ウイルス第一部　西條政幸、下島昌幸
同感染症情報センター　山岸拓也、大石和徳
同獣医科学部　森川茂
同感染病理部　長谷川秀樹

別添２

重症熱性血小板減少症候群について

最近になってその存在が知られるようになった、ダニ媒介性の新しい感染症「重症熱性血小板減少症候群」の患者が、今般、日本国内において報告されました。ここでは、重症熱性血小板減少症候群について、海外での情報等を参考に、現在までに分かっていることについて整理しました。

1　疾病名

重症熱性血小板減少症候群

(Severe fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS)

2　病原体

SFTS ウイルス（ブニヤウイルス科フレボウイルス属）

3　発生状況

・ 2009 年 3 月～7 月中旬にかけて、中国中央部（湖北省及び河南省の山岳地域）で、原因不明の疾患が集団発生したことで本感染症の存在が明らかとなり、2011 年に原因ウイルスである SFTS ウイルスが確認された（現在は 7 省で報告あり）。発生地域では、フタトゲチマダニ等のマダニが SFTS ウイルスを保有しており、このウイルスに感染した哺乳動物も見つかっている（動物の発症は確認されていない）。

・ 2009 年、米国ミズーリ州において SFTS 様疾患の症状を示す患者が 2 名発生し、患者検体から SFTS ウイルスと近縁なウイルスが検出された。

・ 過去に日本を含む世界の他の地域での発生報告はない。

4　感染経路

・ フタトゲチマダニ等のマダニによる咬傷（ただし、ダニによる咬傷痕が確認できない場合も多い）

・ 感染患者の血液・体液との接触感染も報告されている。

5　症状

・ 発熱、倦怠感、食欲低下、消化器症状、リンパ節腫脹、出血症状

・ 潜伏期間は 6 日～2 週間

・ 致死率は約 10-30%（中国において、2009 年当初は報告例が少なく致死率 30 数%であったが、その後調査が進み、10 数%となっている）

6　検査所見

血小板減少（10 万/mm^3 未満）、白血球減少、血清電解質異常（低 Na 血症、低 Ca 血症）、血清酵素異常（AST、ALT、LDH、CK 上昇）、尿検査異常（タンパク尿、血尿）

7　病原診断

・ 血液等のサンプルからのウイルスの分離・同定及び RT-PCR によるウイルス遺伝子の検出

・ 急性期及び回復期におけるウイルスに対する血清中 IgG 抗体価、中和抗体価の有意な上昇の確認、又は、IgM 抗体の検出
（現在、国立感染症研究所ウイルス第一部で実施可能）

8　治療

・ 特異的な治療法はなく、対症療法が主体となる。

・ 有効な抗ウイルス薬はない（中国では、リバビリンが使用されているが効果は確認されていない）。

9　予防法

・ 野外でダニに咬まれないようにする。

・ 感染者の血液、体液、排泄物との直接接触を避ける。

・ ワクチンはない。

別添３

重症熱性血小板減少症候群に関する Q&A

最近になってその存在が知られるようになった、ダニ媒介性の新しい感染症「重症熱性血小板減少症候群」の患者が、今般、日本国内において報告されました。この Q&A では、重症熱性血小板減少症候群について、海外での情報等を参考に、現在までに分かっていることについて解説します。

＜一般向け＞

問１　重症熱性血小板減少症候群（Severe fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS）とはどのような病気ですか？

答　2011 年に初めて特定された、新しいウイルス（SFTS ウイルス）に感染することによって引き起こされる病気です。主な症状は発熱と消化器症状で、重症化し、死亡することもあります。

問２　重症熱性血小板減少症候群は、世界のどこで発生していますか？

答　中国では、2009 年以降、7 つの省（遼寧省、山東省、江蘇省、安徽省、河南省、河北省、浙江省）で症例が報告されています。また、米国ミズーリ州においては、SFTS ウイルスに似たウイルスによる重症熱性血小板減少症候群様の症例が 2 例報告されています。

問３　日本で重症熱性血小板減少症候群は発生していますか？

答　これまで日本国内で重症熱性血小板減少症候群の報告はなく、2012 年の本症例が初めての報告です。

問４　今回の日本の患者は海外で感染したのですか？

答　患者に最近の海外渡航歴はなかったため、日本国内でウイルスに感染したと考えられます。ただし、詳細な感染経路については分かっていません。

問５　SFTS ウイルスにはどのようにして感染するのですか？

答　中国では、多くの場合、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染しています。

問６　マダニは、屋内で普通に見られるダニとは違うのですか？

答　マダニと、食品等に発生するコナダニや衣類や寝具に発生するヒョウヒダニなど、家庭内に生息するダニとでは種類が異なります。マダニ類は、固い

外皮に覆われた比較的大型（吸血前で 3～4mm）のダニで、主に森林や草地等の屋外に生息しており、市街地周辺でも見られます。広くアジアやオセアニアに分布しますが、日本でも全国的に分布しています。

問 7　どのようなマダニが SFTS ウイルスを保有しているのですか？

答　中国では、フタトゲチマダニやオウシマダニといったマダニ類からウイルスが見つかっています。これらのマダニが活動的になる春から秋に、患者が発生しています。

問 8　マダニに咬まれたことにより感染する病気は他にありますか？

答　日本紅斑熱、ライム病など多くの感染症がマダニによって媒介されることが知られています。また、マダニではありませんが、ダニの一種であるツツガムシによって媒介される、つつが虫病などもあります。上記疾患の日本国内での年間報告数はそれぞれ 180 件、10 件、400 件程度です。

問 9　この病気にかからないために、どうように予防すればよいですか？

答　マダニに咬まれないようにすることが重要です。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては注意しましょう。これは、重症熱性血小板減少症候群だけではなく、国内で毎年多くの報告例がある、つつが虫病や日本紅斑熱など、ダニが媒介する他の疾患の予防のためにも有効です。草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくすることが大事です。また、屋外活動後はマダニに刺されていないか確認して下さい。現在のところ SFTS ウイルスに対して有効なワクチンはありません。

問 10　国内で患者が報告された地域は特に感染の危険が高いのですか？

答　SFTS ウイルスを媒介すると考えられるマダニ類は全国に分布するので、今回患者が報告された地域が他の地域に比べて特に危険だということではありません。全国どこにおいても発生し得る感染症と考えられます。

問 11　マダニに咬まれたら、どうすればよいですか？

答　マダニ類の多くは、ヒトや動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から、長いもので 10 日間）吸血します。無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあるので、吸血中

のダマニに気が付いた際は、できるだけ病院で処置してもらってください。また、マダニに咬まれた後に、発熱等の症状が認められた場合は、病院を受診して下さい。

問 12　ヒト以外の動物もマダニに咬まれて重症熱性血小板減少症候群にかかるのですか？

答　一般に、マダニ類は野外でヒトを含む多くの種類の動物を吸血することが知られています。中国の重症熱性血小板減少症候群の流行地域では、SFTS ウイルスに感染している動物もいることが分かっています。ただし、動物が発病するかどうかは確認されていません。

問 13　　SFTS ウイルスは以前から日本にいたのですか？

答　ウイルス自体は以前から国内に存在していたと考えられます。今回、初めて患者が診断されましたが、今後、厚生労働省は、更なる調査研究を進め、実態解明に努めます。

＜医療従事者等の専門家向け＞

問 1　　SFTS ウイルスはどのようなウイルスですか？

答　SFTS ウイルスは、ブニヤウイルス科フレボウイルス属に属する、三分節 1 本鎖 RNA を有するウイルスです。ブニヤウイルス科のウイルスは酸や熱に弱く、一般的な消毒剤（消毒用アルコールなど）や台所用洗剤、紫外線照射等で急速に失活します。

問 2　日本で見つかった SFTS ウイルスは、中国や米国で見つかっているものと同一のウイルスですか？

答　日本で見つかった SFTS ウイルスは、中国の SFTS ウイルスとほぼ同じです。米国で見つかったウイルスは、SFTS ウイルスに近縁のウイルスです。

問 3　潜伏期間はどのくらいですか？

答　（マダニに咬まれてから）6 日～2 週間程度です。

問 4　重症熱性血小板減少症候群にかかると、どのような症状が出ますか？

答　原因不明の発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が中心です。時に頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、呼吸器症状（咳など）、出血症状（紫斑、下血）を起こします。

問５　検査所見の特徴はどのようなものですか？

答　血小板減少（10 万/mm3 未満）、白血球減少、血清電解質異常（低 Na 血症、低 Ca 血症）、血清酵素異常（AST、ALT、LDH、CK 上昇）、尿検査異常（タンパク尿、血尿）などが見られます。

問６　どのようにして診断すればよいですか？

答　マダニによる咬傷後の原因不明の発熱、消化器症状、血小板減少、白血球減少、AST・ALT・LDH の上昇を認めた場合、本疾患を疑うことが大事です。確定診断には、ウイルス学的検査が必要となります。なお、患者がマダニに咬まれたことに気がついていなかったり、刺し口が見つからなかったりする場合も多くあります。

問７　確定診断のための検査はどこでできますか？

答　保健所や地方衛生研究所を通じて国立感染症研究所ウイルス第一部に検査を依頼することができます。

問８　治療方法はありますか？

答　有効な抗ウイルス薬等の特異的な治療法はなく、対症療法が主体になります。中国では、リバビリンが使用されていますが、効果は確認されていません。

問９　患者を取り扱う上での注意点は何ですか？

答　中国では、患者血液との直接接触が原因と考えられるヒト－ヒト感染の事例も報告されていますので、接触予防策の遵守が重要です。飛沫感染や空気感染の報告はありませんので、飛沫予防策や空気予防策は必要ないと考えられています。

問 10　患者検体（サンプル）を取り扱う場合の注意点は何ですか？

答　患者の血液や体液にはウイルスが存在する可能性があるため、標準予防策を遵守することが重要です。

問 11　重症熱性血小板減少症候群が疑われる患者がいた場合、どう対応したらよいですか？

答　最寄りの保健所に連絡をお願いします。

問 12　　検査方法等、技術的な内容の相談窓口を教えてください。

答　国立感染症研究所 info@niid.go.jp にお問い合わせください。